

東通原子力発電所温排水影響調査 海洋環境調査(要約)

佐藤晋一

目 的

平成17年度から営業運転を開始した東北電力東通原子力発電所1号機から排出される温排水が周囲に与える影響を把握するための調査を実施する。

材料と方法

1. 調査海域 東通村白糖沖(図1)
平成27年度からは調査地点をSt.2、5~8の5地点のみに変更(図中、黒丸で示す)
2. 調査時期
第1四半期:平成30年6月7日
第2四半期:平成30年8月31日
第3四半期:平成30年12月4日
第4四半期:平成31年2月27日

3. 調査項目

平成27年度から調査項目を水温・塩分のみに変更。5地点で、CTD(鶴見精機またはJFEアドバンテック)を用いて水温・塩分を測定した。表層はバケツで採水した表面海水の水温を棒状水銀温度計で測定し、試水は水産総合研究所に持ち帰りサリノメーター(渡辺計器)を用いて塩分を測定した。

4. その他

平成23年2月より原子力発電所が運転停止中のため、各時期とも温排水は排出されていない状況である。

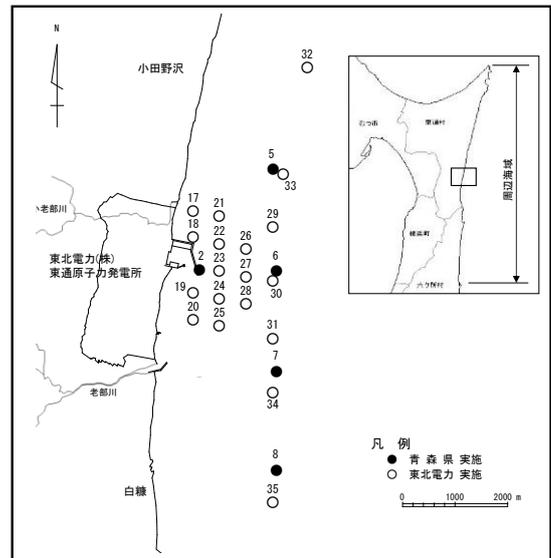


図1. 調査位置図

結 果

1. 第1四半期

水温:全体は12.0℃~14.0℃の範囲にあって、このうち、表層は13.7℃~14.0℃の範囲にあった。

塩分:全体は33.7~33.9の範囲にあって、このうち、表層は33.8~33.9の範囲にあった。

2. 第2四半期

水温:全体は17.4℃~20.9℃の範囲にあって、このうち、表層は20.2℃~20.9℃の範囲にあった。

塩分:全体は33.2~33.9の範囲にあって、このうち、表層は33.2~33.5の範囲にあった。

3. 第3四半期

水温:全体は14.3℃~14.6℃の範囲にあって、このうち、表層は14.3℃~14.5℃の範囲にあった。

塩分:全体、表層ともに33.9であった。

4. 第4四半期

水温:全体は7.8℃~8.7℃の範囲にあって、このうち、表層は8.1℃~8.7℃の範囲にあった。

塩分:全体は34.0~34.1の範囲にあって、このうち、表層は全点で34.1であった。

発表誌: 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成30年度報), 青森県, 平成31年8月